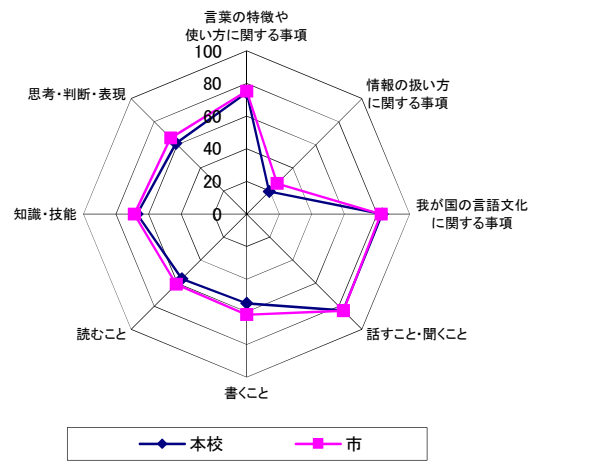


宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.3	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	19.5	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	83.1	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	83.6	83.9	84.2
	書くこと	54.8	61.7	64.5
	読むこと	56.2	60.9	61.0
観点別	知識・技能	67.1	68.8	70.3
	思考・判断・表現	61.1	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

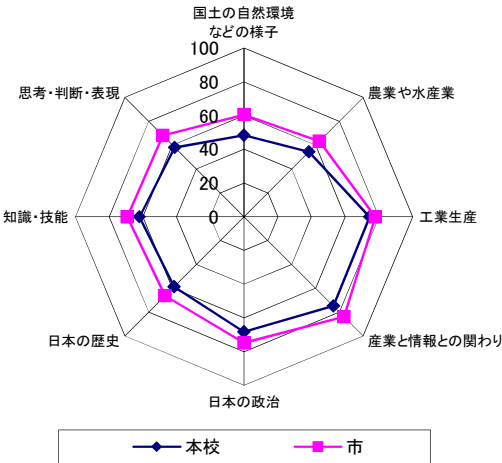
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて1ポイント低かった。 ○6年生に配当されている漢字は、正しく読めている。 ●5学年に配当されている送り仮名を付ける漢字の書きについては、市の平均より約12ポイント低かった。 ○三字の熟語の成り立ちについて、よく理解している。 ●敬語の正しい使い方について、市の平均より約4.5ポイント下回った。	・漢字の読みについては、現在の指導を継続する。書き取りについては、送り仮名を含む訓読みの漢字の指導を授業でも取り入れる。 ・定着を図るため漢字の小テストを行う。同じ漢字を使った言葉についての学習やテストを継続して行うようにする。 ・敬語については、授業はもちろん、常日頃から正しい言葉の使い方について意識させる。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて7ポイント低く、大きく下回る。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均より8.7ポイント低く大きく下回っていて、2つの情報を見比べて簡単に文章を整理したり、図や表から情報を読み取ることに課題が見られる。	・国語の授業だけでなく、社会や理科、総合的な学習の時間などで、表やグラフ、図などの資料から必要な情報を読み取る活動を進んで行う。また、読み取るだけでなく、必要な情報を取捨選択しながら、簡単に文章にまとめる活動を繰り返し行う。
我が国の言語文化 に関する事項	○平均正答率は、市の平均と比べてほぼ同様であった。 ○和語・看護・外来語を選択する問題では、市の平均より0.7ポイント上回り語句の由来について理解していると考えられる。	・児童自身が語句の由来などを調べる学習を通して、語句に興味をもつようにする。 ・漢字指導の際には、字の成り立ちや意味を児童に理解させながら指導を行う。
話すこと・聞くこと	平均正答率83.6%で、市の平均を0.3ポイント下回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容の中心をとらえることができている。 ●聞きたいことの意図に応じて、質問を工夫することに課題が見られる。	・発言や説明をする際には、例を挙げて話すこと、伝えたい意見に理由も添えて話すこと、話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を明確にして話すこと等、相手意識をもって話を分かりやすく伝える方法について常時指導を行う。 ・授業中の話し合い活動やインタビュー活動では、自分が求める情報や、聞いた内容をどのように生かそうとするかを明確にして聞かせる。また、聞き返すことで得た具体的な内容を友達に伝えたり、意見や質問で話をつないだりする等、意図に応じて多様な観点から表現する活動の充実を図る。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて6.9ポイント低く、大きく下回る。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均より8.7低く、大きく下回る。文章の情報を整理することに課題が見られる。	・文章を書くことに対する抵抗感をなくすために、自分の考えや振り返りをノートなどに書くことなどを日常的に経験させていく。 ・段落や、文章の組み立てを意識して文章を書く指導を継続して行うと共に、段落を意識しながら文章を読むことを指導していく。 ・相手意識をもって伝えたいと思える必然性のある言語活動を設定する。 ・情報と情報との関係を理解し、整理する力をつけるためには、社会科や算数、理科などで、データを分析したり、読み取ったことをまとめたりする活動を通して指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて5.2ポイント低かった。 ●説明文の全体の構成を捉える問題では、市の平均より17.7ポイント大きく下回り、説明文の、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題でも8.7ポイント下回った。	・説明文の構成については、授業で扱う際、接続語の働きを意識しながら、文章全体の構成を捉えられるように指導する。 ・文と文とのつながりを意識させたり、情報を整理させたりしながら、接続詞、指示語が含まれた基本的な文章の読み取り方について、一つ一つ確認しながら読解を進めていく。 ・読む目的を明確にした言語活動を設定する。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	48.3	60.5	65.8
	農業や水産業	54.4	63.3	66.0
	工業生産	74.4	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	75.0	83.8	76.6
	日本の政治	68.3	74.9	74.1
	日本の歴史	58.8	66.3	68.3
観点別	知識・技能	61.9	69.3	71.4
	思考・判断・表現	58.1	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

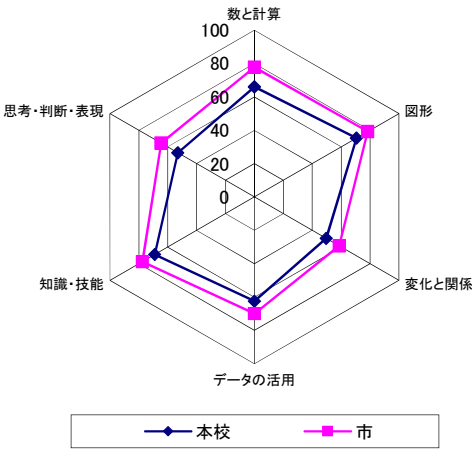
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均と比べ12. 2ポイントと低く、大きく下回っている。 ●森林を守るための間伐についての問題では、市の平均を24. 4ポイント下回っていて、日本の自然環境についての理解に課題が見られた。 ●日本の周辺の海洋名についての問題では、市の平均を19. 0ポイント下回っていて、地理的な知識の理解に課題が見られた。	・地理的な学習の時だけでなく、様々な学習の機会に地図を開き、場所を確認して印を付けるなど、地理的な感覚を養っていくようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均と比べ8. 9ポイントとやや低い。 ●輸入などの外国との関わりにおける問題では、市の平均を15. 5ポイント下回っていて、日本の食料自給率についての理解に課題が見られた。	・外国との輸入の問題点や課題や自国の食料自給率について復習する。 ・授業の中で、資料から読み取れる情報を整理、分析して関連付け、複雑な社会事象について読み取りながら、自分の考えを書く活動を取り入れていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均と比べ3. 5ポイントとやや低い。 ○日本の主な輸出品・輸入品についての問題では、市の平均を3. 5ポイント上回っている。輸出入について資料を活用し、指導してきた成果であると考え。 ●自動車の製造工程についての問題では、6. 9ポイント下回っている。自動車の製造工程の理解に課題が見られた。	・自動車についての学習では、直接工場を見られる機会が少ないため、デジタル教科書の動画やインターネットの資料を使うなど指導の充実を図る。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均と比べ8. 8ポイントと低い。 ●産業における情報活用の現状についての問題では、16. 5ポイント下回っている。情報機器を活用する現場やそのメリットについての内容を扱う内容の理解に課題が見られた。	・資料の読み取りだけでなく、資料から読み取れることを自分の言葉で表現する活動を増やしていく。また、情報メディアの種類やその違いに関する学習の充実を図る。
日本の政治	平均正答率は、市の平均と比べ6. 6ポイント低い。 ●平和主義の基本的な考え方についての問題では、8. 6ポイント下回っていて、日本国憲法の三原則への理解に課題が見られた。 ●議会政治について、資料をもとに考え、表現する問題では、8. 0ポイント下回っていて、国会で法律や予算できるまでの流れについての理解に課題が見られた。	・日本国憲法の三原則や税金の働き、政治の仕組みについて確実に理解するために、単元で学習した内容について、話し合いの活動を取り入れ、自分の言葉で表現できるように指導の充実を図る。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均と比べ7. 5ポイントと低い。 ●豊臣秀吉の業績についての問題では、市の平均を20. 9ポイントと大きく下回っていて、当時の著名な人物に関する知識に課題が見られた。 ●鎌倉幕府の政治についての問題では、市の平均を10. 7ポイントと大きく下回っていて、当時の政治の仕組みについての理解に課題が見られた。	・日本の政治的な権力の移り変わりについて、時代の流れとともに連続的に捉えられるように、歴史的に著名な人物と関連させながら、時代背景や歴史的事象が起こった要因などについて、資料をもとに考える機会を設けて、理解を深める。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	65.9	77.7	78.6
	図形	70.7	78.4	74.4
	変化と関係	49.7	58.7	53.0
	データの活用	62.4	69.9	57.2
観点別	知識・技能	68.9	77.5	74.0
	思考・判断・表現	53.0	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

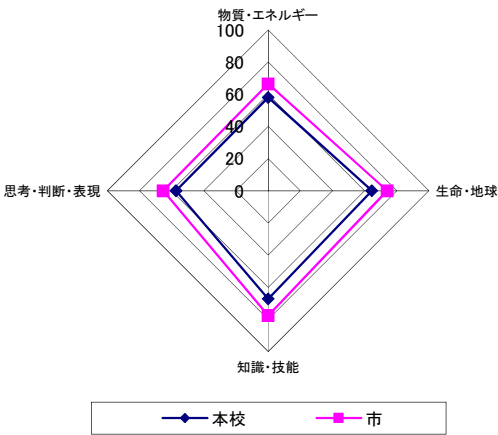
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて11. 8ポイント低く、大きく下回っている。 ●異分母分数の減法の計算の問題では、市の平均より19. 6ポイントと大きく下回っている。基礎基本の計算問題への取り組みに課題が見られた。 ●小数の乗法の文章問題を表した数直線を捉える問題では、21. 1ポイントと大きく下回っている。数直線の性質の理解に課題が見られた。	・分数の加減乗除のそれぞれの計算で、答えを導き出す過程で必要な通分や約分が正確にできるように、類似問題等で復習を行う。 ・文章問題を図式化したり、数直線に表したりする活動を繰り返し行い、論理的に立式できるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均と比べて7. 7ポイント低い。 ●角柱の体積を求める問題では、市の平均より15. 2ポイントと大きく下回っている。体積の公式の理解に課題が見られた。 ●合同な三角形を作図する問題では、市の平均より11. 9ポイントと大きく下回っている。作図の仕方やコンパスの使い方に課題が見られた。	・体積を求める問題では、底面積が高さの分だけ積みあがっているという意識を持たせるため、実物を用いて、視覚的にも理解できるようにする。 ・作図を行う上で、長さを正確に測りとりえるようコンパスの使い方と、そのよさを各学年で確認し、指導をしていく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて9ポイント低い。 ●人口密度に関する問題では、市の平均より12. 5ポイントと大きく下回っている。人口密度の求め方の理解に課題が見られた。 ●割引後の値段を求める式を選択する問題では、市の平均より9. 3ポイント下回っている。割引後の値段の求め方の理解に課題が見られた。	・計算式の答えの単位について、式の意味の理解を促すことで身に着けさせる。 ・割合の意味について、図などを用いて理解を促し、割引後の値段を正確に導き出せるように、類似問題等で繰り返し練習し、論理的に立式できるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べて7. 4ポイント低い。 ●度数分布表を完成させる問題では、市の平均を14. 6ポイントと大きく下回っている。プロットや分布表の見方など単元の基礎的な内容への課題が見られた。 ●平均から全体を推測する問題では、市の平均を18. 0ポイントと大きく下回っている。平均を活用する問題に課題が見られた。	・算数に限らず、他教科でもグラフや分布表・プロットに慣れ親しむようにしたり、類似問題等で復習を行ったりして指導をしていく。 ・平均を求める方法を反復練習したり、日常で平均の考えを使う場面で使用させたりして、平均の考え方に慣れ親しめるよう指導していく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	58.1	66.5	66.3
	生命・地球	64.5	74.0	72.6
観点別	知識・技能	67.2	77.6	78.2
	思考・判断・表現	57.3	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べて8.4ポイントと大きく下回っている。 ○電磁石の強さが電流の大きさや導線の巻き数によることを推測する問題では、市の平均を4.0ポイント上回っている。実験の結果を考察する活動を確実に行った成果であると考えられる。 ●メスシリンダーとろうとに関する問題では、市の平均を15.9ポイントと大きく下回っていて、実験用具の使い方の理解に課題が見られた。	・実験用具の使い方を定着させるため、実験の方法について、実験の前に児童にやり方を示したり考えさせたりすることで、正しく実験できるようにしていく。 ・実験をする際、ただ実験をするのではなく、何を明らかにするための実験なのかを児童が把握できるようにする。また、実験から得られた結果から、何が考察できるのかをペア学習やグループ学習を取り入れて、一人一人が考えたり、表現したりできるようにしていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均と比べて9.5ポイント低い。 ○台風の風による被害を指摘する問題については、市の平均を3.8ポイント上回っている。ICTを使って、実際の画像や動画を視聴し、取得した成果と言える。 ●葉のついたホウセンカは蒸散により、かぶせた袋の中がくもることの理解を求める問題では、市の平均を20.1ポイントと大きく下回っていて、植物のつくりと働きへの理解に課題が見られた。	・実際に実験、観察を行い、まとめるだけでなく、デジタル教科書などのICTも利用し、確実に定着させていく。 ・植物の実験、観察では、教師による演示実験ではなく、児童一人一人が直に実感できるよう、実験できる植物の量を増やすなどの準備が必要である。 ・問題文の読解力を上げるために、実験結果を考察したり、自分の言葉でまとめたり、文章力も上げる支援も合わせて行っていく。